



# くば小児科 クリニック

院内報 2014年12月・2015年1月号

		午前	午後		予定・備考
2月1日	日	休診	休診		
2月2日	月				
2月3日	火			13:15~	1歳半健診(健診センター)
2月4日	水		休診		
2月5日	木				
2月6日	金				
2月7日	土		~15時	15:00~	八戸地区思春期問題懇談会
2月8日	日	休診	休診	12:00~	休日夜間急病診療所当番(根城)
2月9日	月				
2月10日	火				
2月11日	水	休診	休診		建国記念の日
2月12日	木				
2月13日	金				
2月14日	土		~15時		
2月15日	日	休診	休診		
2月16日	月				
2月17日	火				八戸えんぶり(~2/20)
2月18日	水		休診		
2月19日	木			19:00~	休日夜間急病診療所当番(根城)
2月20日	金			19:00~	青森県保険医協会医療安全研修会
2月21日	土		~14時		午後は14時まで
2月22日	日	休診	休診	10:00~	日医母子保健講習会(東京)
2月23日	月				
2月24日	火			19:00~	八戸市小児科医会(未定)
2月25日	水		休診		
2月26日	木			19:00~	休日夜間急病診療所当番(根城)
2月27日	金				
2月28日	土		~15時	18:00~	青森県タバコ問題懇談会(青森)
3月1日	日	休診	休診		
3月2日	月				
3月3日	火				

## ● 院内版感染症情報 ~2015年第04週(01/19~01/25)

	2014-2015年	第39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	01	02	03	04週
インフルエンザ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	13	9	23	19	29
咽頭結膜熱		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎		0	1	4	7	4	8	4	6	6	4	3	6	10	19	9	1	6	3
水痘		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手足口病		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑		0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	2	0	0	0	0	0
突発性発疹		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
百日咳		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## ◎ インフルエンザ流行中 1月下旬がピークで2月中旬まで続く見込

今シーズンのインフルエンザは12月2週目から流行が始まりました。例年だと流行開始後4週くらいでピークに達するのですが、今年は冬休みをはさんで3学期が始まる時期に重なったので、ピークが1月下旬までずれ込み、2月中旬にかけて終息に向かうのではないかと予想しています。B型がシーズンの終盤に見られることが多いので、一冬に2回かかる場合もあります。

現在流行中のウイルスはA香港型(H3N2)で、2009年の「新型」以来みられていたH1N1はほとんど検出されていません。A香港型は小児や高齢者で重症化しやすく、熱性けいれんや脳症などの合併症も比較的多いことで知られています。今シーズンに脳症や死亡例が多発しているという情報はありませんが、今後も注意が必要でしょう。「2009年の新型は深刻だったが、今年のA香港型はいつものことだから心配ない」という風潮は誤りです。

抗インフルエンザ薬のタミフル（経口薬）やイナビル（吸入薬）の効果はみられており、多くの方は2日以内には熱が下がっています。

ワクチンの効果が乏しいのでは？という情報が流れましたが、その後、小児では効果がみられているというデータも出ているようです。実際に、インフルエンザにかかった子のほとんどはワクチンを接種していません。なお、当院でも在庫がなくなるか流行が終息してきたら接種終了する予定です。

ウイルス性胃腸炎は小康状態ですが、2月以降はノロにかわってロタウイルスが流行する時期に入ります。ワクチン導入により入院が減少しています。

## ● 2014～2015年の感染症の状況と対策（1） 麻疹と風疹

2014年は麻疹（はしか）が再び増加して463人となり、2013年の232人の2倍になりました（制圧目標は年間120人）。その原因は、海外からの輸入例に加えて、周辺から広がった流行が一部地域で定着したことにあります。

一方、2013年に14,344人と成人男性を中心に大流行した風疹は、2014年には321人となり、2011年（378人）以前のレベルまで低下しています。ただし、青森県内では明らかな流行がみられなかったため、多くの成人が未感染のまま残されています。（＝いつ流行するかわからない）

以上をまとめると、1歳児と入学前のMRワクチンの徹底に加えて、麻疹と風疹ワクチンを2回接種していない成人男女へのMRワクチン接種の徹底が求められているのです。（現在の国や自治体の対策は不十分です）

## ■ タバコについての小学生の疑問・質問に答える（2）

### ● なぜタバコを売るのですか？ タバコを作っても違法にならないのですか？

これが一番大切な疑問で、毎年同じような感想や疑問を書いてくれる子が何人もいますが、そう感じてもらえるようにお話をしたつもりなのです。

タバコは医学的に言えば禁止薬物に指定されるべきで、本来なら法律で禁止しなくてはならない製品です。タバコにはニコチンという依存性のある薬物が入っていて多くの方がやめられなくなる上に、吸い続けると半数の人を

死亡させます。もし、このような消費者向けの商品がタバコ以外にあったら、タバコと同じように何の規制もなく自由に売られているでしょうか。

タバコが違法ではない理由の一つは、タバコの害や依存性がわかる前からタバコが売られていたからなのですが、問題はそんなに簡単ではありません

世界中の国でタバコを法律で禁止している国はまだありません。ブータンは唯一タバコの国内販売を禁じていますが、これは仏教の教えによるもので、首都では「抜け道」から入手する手段はあるようです。（同じ仏教徒の多い日本では、一般国民だけでなくお坊さんでもタバコを吸っている人が結構いるのはどうしたわけでしょう。）

「WHOタバコ規制枠組み条約」には、日本も含めて世界のほとんどの国が参加しています。この条約は、タバコ会社が世界中で販売を拡大して被害が広がるのを防ぐために、タバコの価格、販売、広告、受動喫煙防止などのあらゆる面での規制を徹底的に行い、結果的にタバコを非合法化するよりも前に喫煙率がゼロに近づくことを優先しているようです。

その背景には、タバコ会社の莫大なお金（タバコマネー）を元手とした強大な政治的圧力に対して、各国政府が十分に対抗することができていないという現実があります。（それに対抗するために条約がつけられたのです）

さらに、日本では国とタバコ会社が非常に特殊で密接な関係にあるため、規制が全く進まないという事情があります。これについては、次のタバコの歴史のところで続きを書きます。（次号に掲載予定）

## ● 1月・2月の診療、急病診療所の予定

1月は5日からの診療となり、その後は休診の予定はありません。2月21日（土）は東京出張のため午後2時までとなります。急病診療所当番は1/26(月)夜、2/8(日)昼、2/19(木)夜、2/26(木)夜の予定です。育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険・予約制）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

♡ 当院は「敷地内禁煙」です